

2026年2月10日

長岡技術科学大学

産学官連携による防災研究の社会実装プロセスが 第8回日本オープンイノベーション大賞 選考委員会特別賞を受賞

ー オール新潟で誕生した水再生処理技術「ウォーターチェンジャー®」の
社会貢献・世界展開 ー

長岡技術科学大学と東京電力HD（株）との技術開発プロジェクトからスタートした防災研究が新潟県「防災産業クラスター形成事業」の支援を受け県内企業とコラボし、社会実装に至ったプロセスが評価され、第8回日本オープンイノベーション大賞にノミネートされ、2026年2月9日（月）に虎ノ門ヒルズフォーラム（東京都）で開催された表彰式において日本オープンイノベーション大賞選考委員会特別賞を受賞しました。

日本オープンイノベーション大賞は、内閣府が主催し、産学官連携や地域連携などにより社会課題の解決に優れた成果を挙げた取り組みを表彰する制度です。

選考委員会の審査において、顕著な取組等が認められ選考委員会特別賞を受賞しました。

各賞の受賞はこちらからご覧ください。

URL：<https://www8.cao.go.jp/cstp/openinnovation/prize/2025.html>

■ 日本オープンイノベーション大賞 受賞内容

産学官連携による防災研究「ウォーターチェンジャー®」の社会実装プロセス

～能登半島地震被災地で活躍した新潟県企業から生まれたトイレカー「リバイオ」の誕生～

【目的】 防災対策やSDGsにおいて求められている世界的な水問題の解決

【内容】 本学と東京電力HDが、特殊な材料に住む微生物が水中の汚染物質を分解する水再生処理技術「ウォーターチェンジャー®」を共創開発。この技術を、新潟県の「防災産業クラスター形成事業」の支援をいただき、ユニトライク社が水切れを起こさない手洗い装置「バイオランドリー」として社会実装。その後、AQVANA社ではこの小型化モデルを海外と連携し開発、またユニトライク社はニットク社のトイレカーにこの小型化モデルを搭載した「リバイオ」を共同開発し商品化。

【効果】 これまで能登半島地震被災地の断水地域や避難所向けに手洗い環境を提供。

詳細は別添資料をご確認ください。

■ 受賞者

- ① 長岡技術科学大学 環境社会基盤系 准教授 渡利 高大
- ② ユニトライク株式会社 代表取締役 監物（村上） 秀樹
- ③ 東京電力ホールディングス株式会社 フェロー（長岡技術科学大学 客員教授） 吉澤 厚文
- ④ AQVANA 株式会社 CEO（長岡技術科学大学 技術科学イノベーション系 助教） Nur Adlin Binti Abu Bakar
- ⑤ 株式会社ニットク 取締役 荒井 和孝

■ 受賞のポイント

市民生活における水確保・防災での問題解決につながる地道な活動が、長年にわたる地域における産学官の連携として結実したモデルケースとなる事例

■ 受賞者のコメント

長岡技術科学大学 環境社会基盤系 渡利准教授

『この度は、日本オープンイノベーション大賞選考委員会特別賞という栄誉ある賞を受賞し、大変光栄に存じます。本研究は、長岡技術科学大学を中心に、新潟県内の企業、自治体、関係機関が一体となり、いわば「オール新潟」で地域課題である「水」と「防災」に真正面から取り組んできた成果です。研究成果が迅速に社会実装され、能登半島地震の被災地をはじめ、実際の社会課題解決に貢献できたことを大変うれしく思っております。今後も、地域に根ざした産学官連携を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。』



お問い合わせ

長岡技術科学大学 地域防災実践研究センター事務局

地域共創課 地域共創推進係

TEL：0258-47-9298

E-mail：chiiki@jcom.nagaokaut.ac.jp

配信先

文部科学記者会、科学記者会、長岡技術科学大学関係報道機関

産学官連携による防災研究 「ウォーターチェンジャー®」 の社会実装プロセス

～能登半島地震被災地で活躍した新潟県企業から
生まれたトイレカー「リバイオ」の誕生～

国立大学法人長岡技術科学大学 准教授 渡利 高大

ユニトライク株式会社 代表取締役 監物 秀樹

東京電力HD株式会社 フェロー 吉澤 厚文

AQVANA株式会社 CEO Nur Adlin Binti Abu Bakar

株式会社ニットク 取締役 荒井 和孝

1. 取り組みの目的・実施内容

■取り組みの目的

防災立県を目指す新潟県は、県知事の強いリーダーシップの元「**防災産業クラスター形成事業**」を立ち上げ、防災関連の製品、技術開発やビジネス化を促進してきた。我々はそのプラットフォームを活用し、産学官連携により大学発の技術（ウォーターチェンジャー®）を、防災を含め広く社会に役立つ産業として育成していくことを目的とする

■実施内容

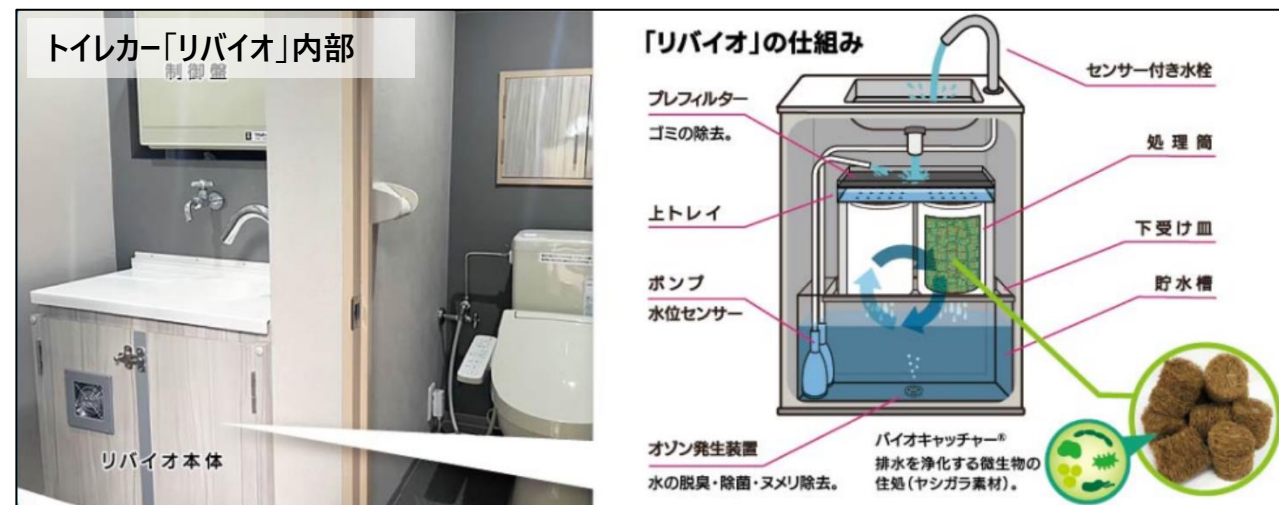
長岡技大水圏土壌環境研究室と東電HDの共同研究成果であるバイオ技術を活用した**水再生処理技術（ウォーターチェンジャー®）**をユニトライク社が「**バイオランドリー**」として商品化。並行して同技術の知財取得を行った

<取得した知財>

- ・商標「ウォーターチェンジャー®」「バイオキャッチャー®」
- ・特許「有機性排水処理システム」
- ・出願中「バイオキャッチャー（微生物担持体）」

さらに産業化を推進するために、長岡技大の大学発ベンチャーとしてAQVANA社を設立、水処理システムを開発し、**マレーシアを始め海外展開**を推進

同商品を活用し、**能登半島被災地の支援**を行い、さらに**トイレカー「リバイオ」**等、新たな商品開発を推進



バイオランドリー搭載型トイレカー「リバイオ」概要

2. 実施体制と特徴

■ポイント①：産学官連携による相乗効果

新潟県の防災・災害支援力、産業の強化という目標に向かって、長岡技大の実践的な技術開発を主眼とした教育研究を軸に、新潟県の中小企業、ベンチャー企業、新潟県などの行政機関のプレーヤーが連携

プレーヤー	強み	主な役割
新潟県	組織間を繋ぐプラットフォームの提供、イベント開催	「にいがた防災ステーション」による防災イベントへの出展、呼びかけ
長岡技大	実践的な技術開発を主眼として教育研究を実施。高い技術力を持つ	バイオ技術、システム技術に関する学術的支援、フィールドデータの詳細分析
東電HD	防災・減災の情報分析やマーケット調査。長岡技大との研究体制確立	長岡技大地域防災実践研修センターとして防災イベントに出展、防災・減災の情報を分析
ユニトライク	工事現場への販売力、現場の声を収集、フィードバック	能登半島地震被災地支援など現場への適用と得られた知見の共有
AQVANA	マレーシアマラッカ技術大学（UTeM）との繋がり マレーシアでの販売	海外への販売展開
ニットク	建設機械・特殊自動車の製造、販売	バイオリンドリー搭載型トイレカーの製造と販売

■ポイント②：地元産業の拡大

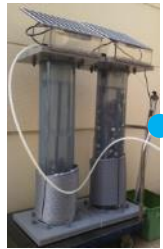
新潟県の企業であるユニトライク社が、長岡技大の技術を用いて、新潟県発の防災商材「**バイオリンドリー**」を開発
その発展系として、新潟県の企業であるニットク社と共同で手洗い水の再利用が可能な**トイレカー「リバイオ」**を開発
能登半島地震を契機に、防災産業として必要なトイレカー事業に進出

2. 実施体制と特徴

■ポイント③：平時から災害時まで使える商品を目指す

長岡技大・東電HD

大学モデル



可搬化

JST/A-STEP

新潟県・ユニトライク・東電HD

商品化 1号



商品化

バイオランドリー



バイオランドリー全体図

経産省中小企業庁
事業再構築補助金

小型・
自動化

AQVANA・UTeM

AQVANAモデル (AQTE)



長岡市
学生起業家補助金

マレーシア
マラッカ
技術大学
(UTeM)
設計

小型化

新潟県・ユニトライク・ニットク



ほうさいこくたい2025
新潟県ブース展示



坂井担当大臣(防災)、花角新潟県
知事がご視察

車載モデル

※主連携箇所

※支援頂いた補助金

太陽光発電
塔載



自律型モデル

自動化



自動化モデル

大容量化

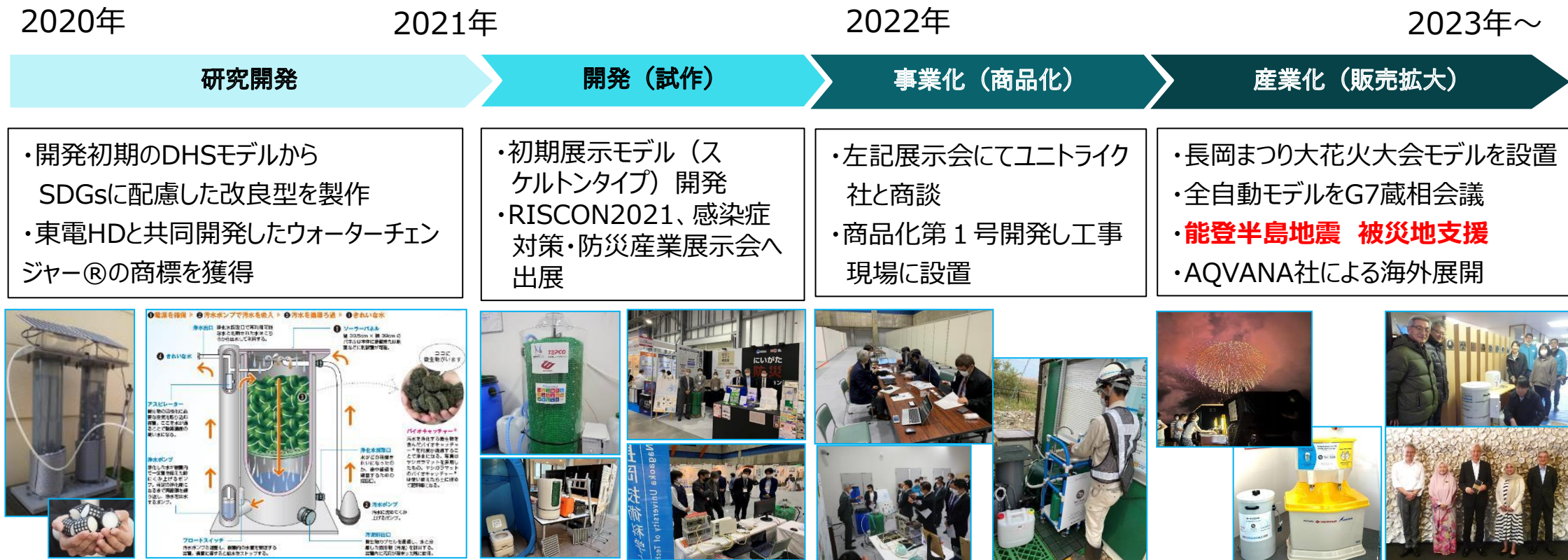


長岡まつり大花火大会
モデル

「常時使用できる
モデルとした」：
工事現場、イベント

3. 取り組みの成果や効果

■ 産学官連携による社会実装プロセス



■ 能登半島地震被災地支援

2024年1月6日から最大7月24日まで、延べ12台の「バイオランドリー」を設置。断水地域に手洗い環境を提供
 主な設置個所）珠州市立飯田公民館（避難所）、氷見市特別養護老人ホームつまま園
 北陸電力志賀原子力発電所、輪島市ココハサトマチ 他

3. 取り組みの成果や効果

■ 受賞、展示、設置実績



■ 販売実績

- ・バイオランドリー : 行政、民間を合わせて30台を販売
- ・バイオランドリー 2 : 2026/3 11台 納入予定

■ 今後の展望

- ・地域中核特色ある研究大学として、産学官連携により、社会変革のオープンイノベーションを創出
- ・防災立県として、新潟県の防災力を向上させるとともに、防災産業の発展に尽力
- ・防災事業の海外展開を指向

■ マスコミ報道

新聞掲載：日経（信越版）、新潟日報、毎日、他15件
新潟県民だより：2025年8月号
TV放送：NHK新潟、BSNゆうなび 5件